

活動報告 博物館教室〈楽しいしぼり染め〉(2)

中級―「藍の絞り染めで浴衣を作る」

宮本 康 男*

はじめに

当館研究報告24号において平成10年度に実施した博物館教室「楽しいしぼり染め―中級」の活動を報告したが、平成11年度も引き続きこの教室を実施したので、その概要と成果を報告する。

教室開設に至る経緯及びこれまでの活動については当館研究報告24号を参照されたい。

1 平成11年度教室「楽しいしぼり染め―中級」

「中級コース」を設けて2年目となり、4月から募集したメンバーで5月に今年度のワークショップをスタートさせた。昨年から引き続いて参加しているメンバー、新規に加わったメンバーそれぞれにテーマを設定して取り組んだ。

正規の活動日は5月16日、6月13日、7月11日、9月12日の4回であったが、これとは別に染めだけの日を各月2日ずつ設けたので、都合12回の活動であった。もちろんこの日数だけでは作品が出来ないので、それぞれが自宅で製作に取り組んだ、4回の正規の活動日は、基礎技術の研修、デザインやデザインに適用する絞り技法の検討、試し染め、情報交換などを行った。

●第1回 5月16日(日)

①鹿角紫根・茜染め、浅舞絞等秋田の絞り染めの意匠や技術の特徴について学習した。

②近世末頃の浮世絵版画の中に見られる絞り染めの意匠と用いられている技法を考えた。

③帷子(木綿の単衣)の裁ち方、仕立て方の概略を知り、浴衣の模様をデザインする上での留意点を考えた。

④基本的な縫い絞り、巻き上げ絞り、鹿子絞り、三浦絞り、板締め絞りの技術と用具について学習した。

●第2回 6月13日(日)

①秋田の伝統的な絞りの特性をふまえて浴衣のデザインを考えた。

②部分部分を試験的に絞って試し染めを行う中で問題点を見つけだし、克服の努力をしたり、絞り染めとしてより合理的なデザインに変更したりした。(家庭で計画的に一反分を絞る)

●第3回 7月11日(日)

①計画的に絞り上げた一反分の布地を染めた。(家庭で染めた布地を乾かし、絞りを解いて仕上げる。浴衣(帷子)に仕立てる。)

●第4回 9月12日(日)

①絞り染めの布地や浴衣(帷子)に仕立てたものを持ち寄り合評会を行った。

2 楽しい絞り染め 作品展の開催

第2展示室において作品展を開催した。

楽しいしぼり染め―中級のメンバーが絞って染め上げた作品は、一つ一つが苦労の結晶であると同時に、それぞれの喜びそのものである。絞ることが楽しい。染めることが楽しい。そしてその成果をたくさんの人々に見てもらえれば尚楽しいということで、作品展に活動紹介を併せて実施した。

展示した作品は10年度の作品が中心であるが、一部11年度の作品も加えた。

展示実施のきっかけは、11年度の最終回の合評会である。実験教室では狭いので、休憩ロビーの通路を使用して、衣桁を並べて作品を掛けて合評会を行った。この時、僅か半日ほどの時間であったが、教室の作品が多くの人目に触れることとなった。その後、当日見た人の「もっとゆっくり見たかった」、伝え聞いた人たちの「私たちも見たい」といった意見が数多く寄せられたことと、館関係者の「ぜひ展示した方がよい」という後押し

*秋田県立博物館

があったこと等が展示に踏みきるきっかけとなった。元々年間の計画にある展示では無いので、通路やロビーを使っただけの展示を計画したが、丁度展示替えのためにギャラリーが空く期間があったのでそれを利用していただいた。7月1日から18日までの、夏を迎えて藍染めの浴衣が涼しげに見える丁度良い時期で、期間は18日間とやや短めであったが、時節にあった展示になった。

広報や展示作業では教室メンバーの有志にも参加していただくなど、手作りで展示を行った。

我々の仕事がどのように見てもらえるのか、その感触をつかむため、会期中はできるだけ展示会場に出ていたが、教室のメンバーも同じ思いで何度も展示会場に立ち観覧者の反応を確認していた。

観覧者の反応は概ね好意的なものが多く、力づけられる思いであった。年輩者からは懐かしいという感想が多く寄せられた。また、若い世代には「藍の絞り染め=昔のもの」というイメージすら無いため、むしろ新鮮な印象を持って見ていただいた。一番多かった感想は、1年や2年の経験でこんなことができるのかという驚きであった。そして多くの人に「やればわたしも何かできそうだ」という印象を持っていただけたことが大きな成果であった。

当館としては、これまでワークショップの成果を大きく取り上げて展示する機会をもたなかったが、この度の試行で「利用者と博物館がいっしょになってつくりあげる展示」「利用者が情報発信

する展示」という今日的課題の展示ジャンルに一步踏み出したととらえたい。これも一つの成果と考える。

おわりに

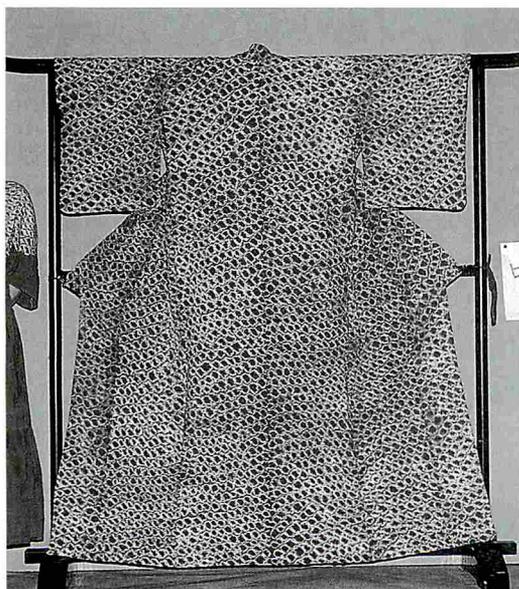
本県に伝えられる絞り染めの技術は日本の絞り染めの技術の推移を知る上で貴重な情報を含んでいる。また、北辺の風土の中で独自の洗練を遂げた絞り染めの意匠は美しく、高い芸術性を持っている。そしてそれらは、私たちの基底を流れる精神文化を色濃く反映したものと捉えてよいであろう。このワークショップの活動を通して本県の優れた絞り染めの文化の一端に触れ、そのすばらしさを感じ取り、これらを生み出した人々と時を超えて心を通いあわせることができることは大変なよろこびである。

古い絞りを見ていると、ひとつひとつの針目や括りのあとを通して先輩たちが自慢げに語りかけてくる。そして私たちの求めに応じて訥々とした語り口で技の手の内をあかしてくれる。過去と現在、時間の壁が無くなり、もの作り同士の気持ちが通い合う至福の時、私たちは何かしっくりしたものを見ているような気がする。

手絞りの技は根気のいる難儀な仕事であるが、完成させたときの喜びにはそれ以上のものがある。この大きな喜びが私たちを捉えて放さない。

以下写真で本年度の作品を紹介する。

※は染め生地から浴衣の形にCG合成したものである。



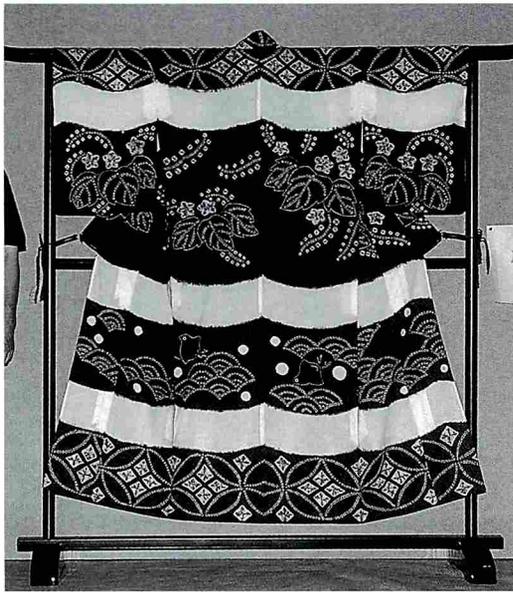
1
三浦絞り浴衣

秋田市
中野竹子

2
流水に紅葉文様 ※
浴衣地

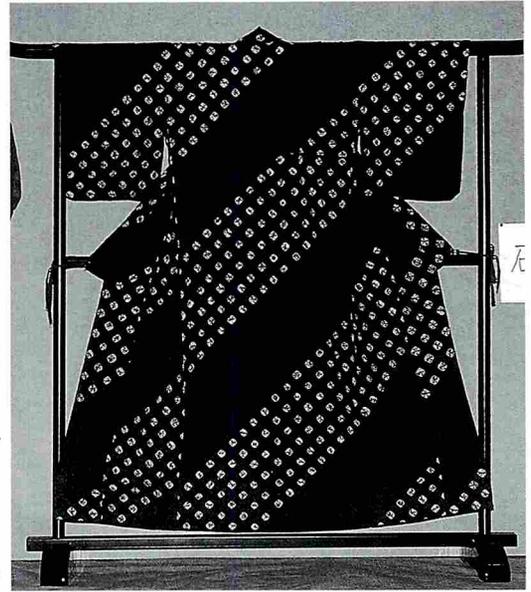
秋田市
滝沢秀子





3

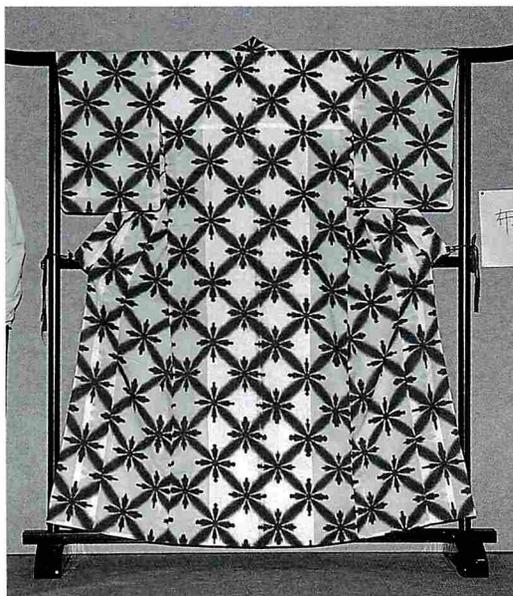
3
浅舞写し
桐と七宝波に千鳥
段替り文様浴衣
山本町
川村悦子



4

4
羅仙紋り浴衣

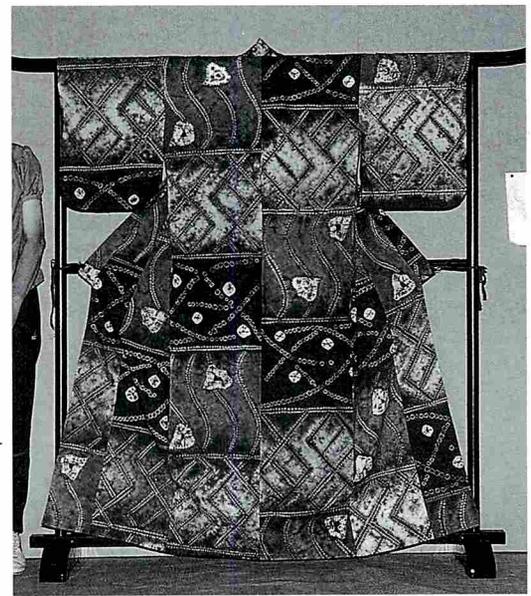
秋田市
石井吉兵衛



5

5
たたみ紋り浴衣

大館市
布谷保子



6

6
段変わり文様浴衣

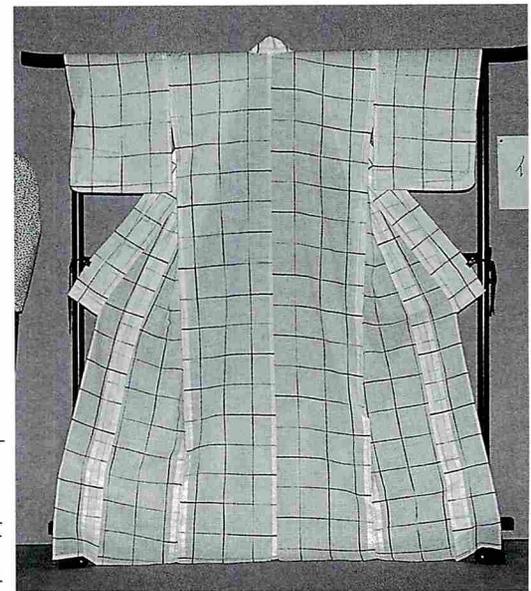
秋田市
武田芳子



7

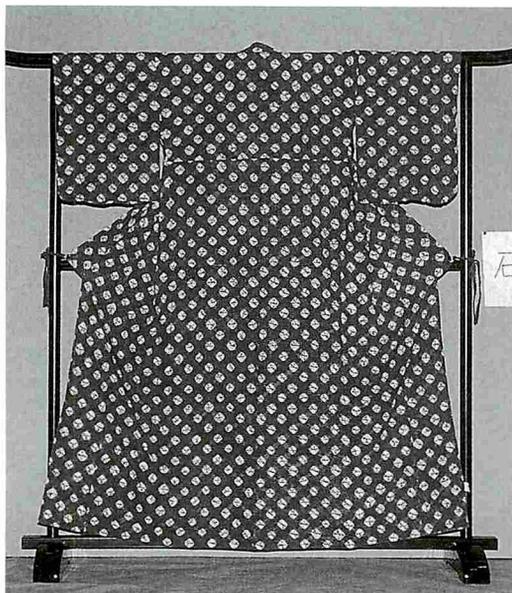
7
立涌紋り浴衣

湯沢市
武石昭子



8

8
たたみ紋り
格子文様浴衣
秋田市
伊藤まり子



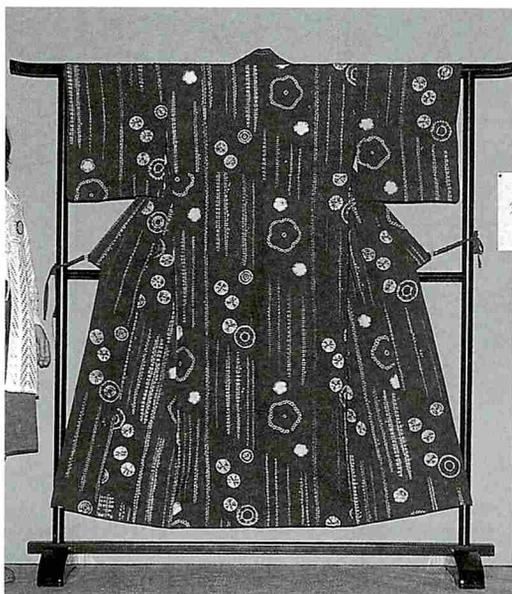
9

9
羅仙紋り浴衣

秋田市
伊藤吉兵衛

10

10
流水に紅葉文様 ※
浴衣地
秋田市
石井千恵子



11

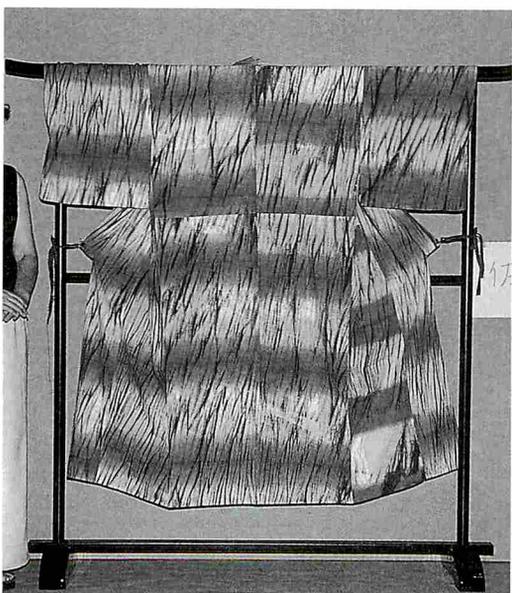
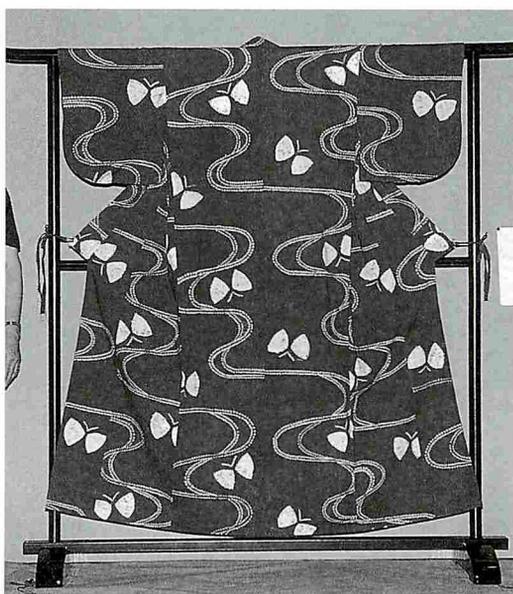
11
梅花文様浴衣

秋田市
菊池アチ子

12

12
流水に蝶文様浴衣

秋田市
小西美知



13

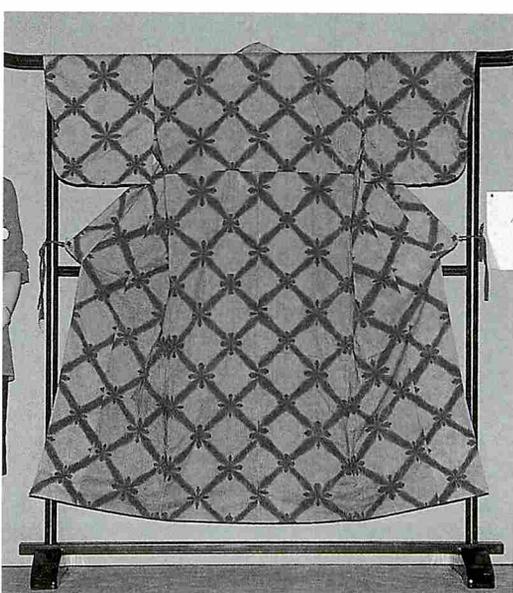
13
柳文様段染め浴衣

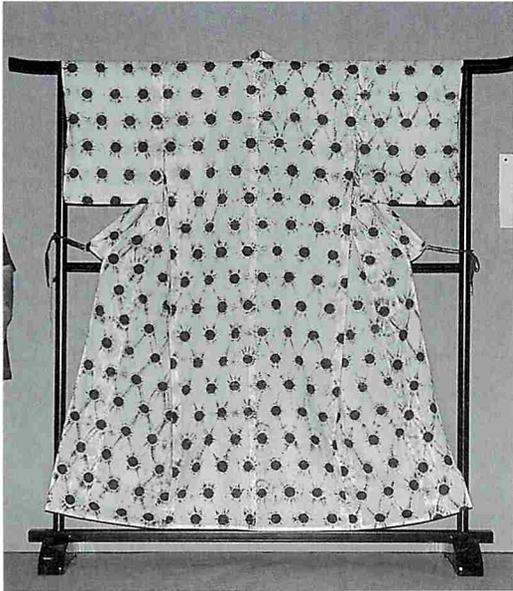
秋田市
佐藤久美子

14

14
たたみ紋り浴衣

湯沢市
飯塚芳子





15

15
日の出絞り浴衣

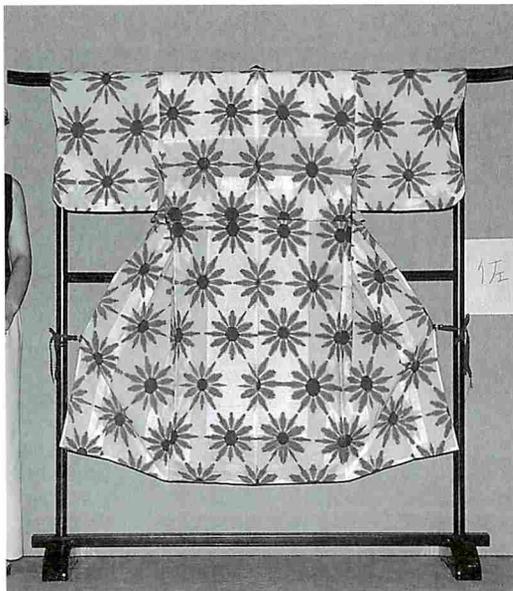
秋田市
佐々木とも



16

16
斜柳絞り浴衣

秋田市
伊藤まり子



17

17
たたみ絞り浴衣

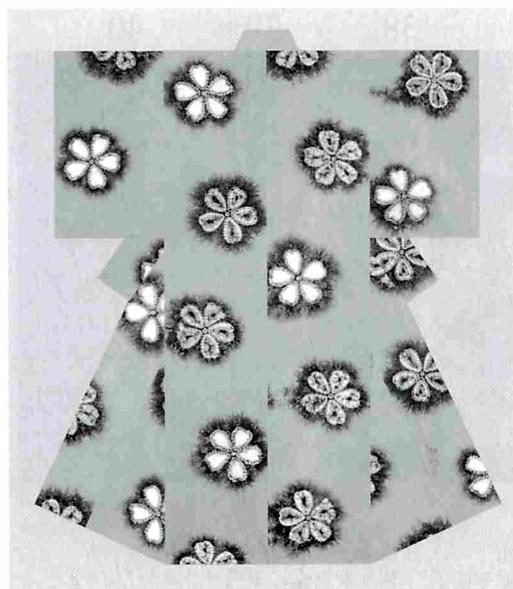
秋田市
佐藤久美子



18

18
立涌文様浴衣

飯田川町
山平初子



19

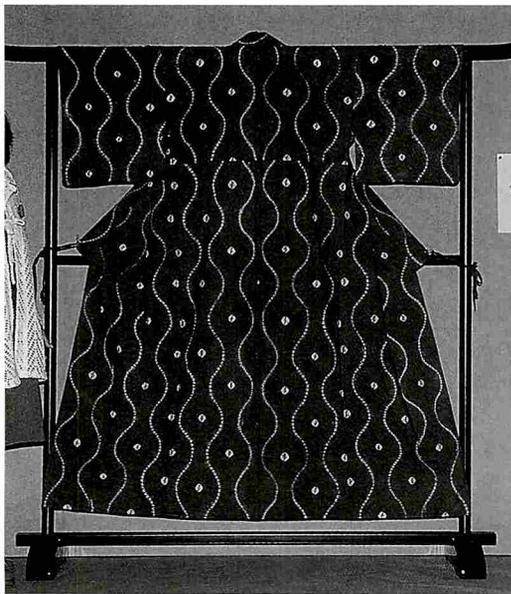
19
おっこち絞り ※
浴衣地
秋田市
佐藤康子



20

20
むら絞り浴衣

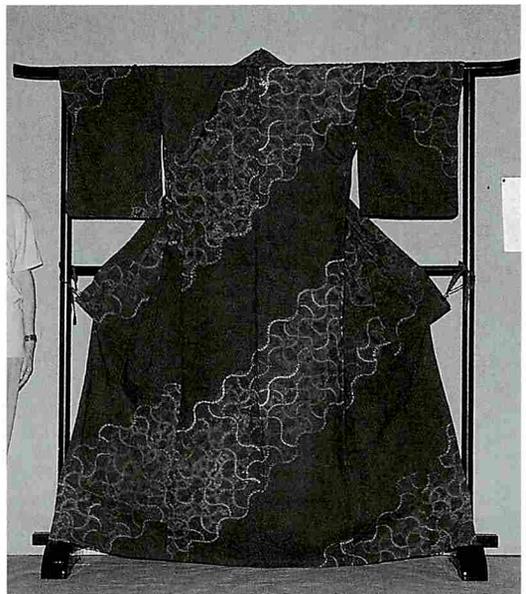
秋田市
奈良笑代



21

立涌絞り浴衣

秋田市
菊池アチ子



22

分銅つなぎ文様
浴衣

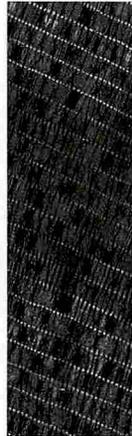
秋田市
斎藤せい

23



たたみ絞り
浴衣地
能代市
宮腰宏子

24



斜縫締絞り
浴衣地
能代市
宮腰宏子

25



立涌絞り
浴衣地
天王町
渡部和子

26



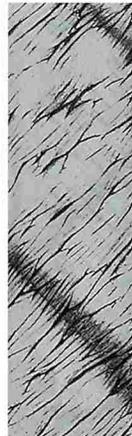
たたみ絞り
浴衣地
大館市
布谷保子

27



梅花文様
浴衣地
能代市
藤田信子

28



斜文柳絞り
浴衣地
秋田市
小西美知

29



変わり柳絞り
浴衣地
天王町
鎌田和子

30



たたみ絞り
抜染浴衣地
能代市
宮腰宏子

31



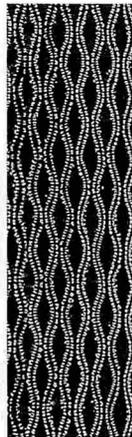
立涌絞り
浴衣地
天王町
七夕由起子

32



変わり柳絞り
浴衣地
秋田市
斎藤せい

33



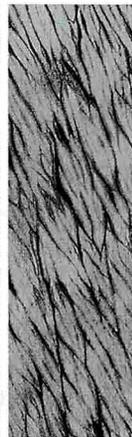
立涌文様
浴衣地
男鹿市
伊勢谷史恵

34



段変わり文様
浴衣地
協和町
鈴木比佐子

35



斜文柳絞り
浴衣地
秋田市
中野竹子

36



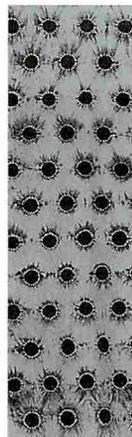
立涌絞り
浴衣地
秋田市
成田栄子

37



大柵絞り
浴衣地
湯沢市
武石昭子

38



日の出絞り
浴衣地
秋田市
佐々木とも

39



日の出絞り
浴衣地
秋田市
佐々木とも

40



日の出絞り
浴衣地
秋田市
佐々木とも